

# 労働の科学

*Digest of Science of Labour*

2019  
*December*  
Vol. 74, No. 12



特集

## 地域資源を活かす持続可能な地域づくり

女性は東京を目指す—それは「問題」か? / 中澤高志  
地域を支える新しい公共サービスのあり方と協働のしくみ / 菅原敏夫  
多くの人々がつながり地域の未来を創る廃校の活用 / 根岸裕孝  
地域の人と社会を支える新しい公共交通のあり方 / 戸崎 肇  
より地域を巻き込み、地域活性化を目的とした株式会社を設立 / 吉原秀和  
地域を元気にする持続可能な共助・共生の社会づくり / 八嶋英樹

巻頭言

## 流域住民と一体となった 都市・農村共生の地域づくり

船木直美

セミナー  
再録

生活科学をマイクロな生物から考える  
竹山春子

連載

## 労研饅頭の社会史③

猪原千恵

# 労働の科学

2019  
December  
Vol.74, No.12

巻頭言 俯瞰 (ふかん)

## 流域住民と一体となった 都市・農村共生の地域づくり

船木 直美 [全国源流の郷協議会]

1

表紙：「対 (つい) No.2」 深沢 軍治  
板に油彩，530mm×455mm(10号F)，2018年  
表紙デザイン：大西 文子



## 地域資源を活かす 持続可能な地域づくり

### 女性は東京を目指す—それは「問題」か？

..... [明治大学経営学部] 中澤 高志 ..... 4

### 地域を支える新しい公共サービスのあり方と協働のしくみ

..... [公益財団法人地方自治総合研究所] 菅原 敏夫 ..... 12

### 多くの人々がつながり地域の未来を創る廃校の活用

..... [宮崎大学地域資源創成学部] 根岸 裕孝 ..... 16

### 地域の人と社会を支える新しい公共交通のあり方

..... [桜美林大学ビジネスマネジメント学群] 戸崎 肇 ..... 22

### より地域を巻き込み、地域活性化を目的とした株式会社を設立

持続可能な組織が人と社会をつなぐ

..... [安来市農林水産部] 吉原 秀和 ..... 26

### 地域を元気にする持続可能な共助・共生の社会づくり

..... [特定非営利活動法人 秋田県南NPOセンター] 八嶋 英樹 ..... 32

**Graphic**

ディーセント・ワークを目指す職場 12 [見る・活動] (107) 川上 剛 .....	口絵
---	----

**Series**

労研饅頭の社会史 (3) 暉峻義等の考えた食と労働 .....	猪原 千恵 .....38
凡夫の安全衛生記 (36) 「負担をかけてしまった」リスクアセスメントあれこれ .....	福成 雄三 .....50
労研アーカイブを読む (48) ヒューマンエラーと心身機能モデル .....	椎名 和仁 .....52

**Column**

大原記念労働科学研究所セミナー再録 3 生活科学をミクロな生物から考える 微生物の新たな解析手法から見える有用性 .....	竹山 春子 .....44
Information.....	56
次号予定・編集雑記 .....	58
労働の科学：第74巻 総目次.....	59



俯瞰 ぶんかん

# 流域住民と一体となった 都市・農村共生の地域づくり

小菅村は、多摩川と相模川の2つの河川沿いに開かれた源流の郷です。「多摩源流」の村づくりを1987年にスタートさせ、同年5月4日、「多摩源流まつり」を開催したところ、人口1千人(当時)を越えた。不足する村に1万人を超える流域の住民が参加し、流域住民との協働のヒントを得る大きな力となりました。以来、毎年5月4日に開催されてきたまつりは、2019年で32回を数えました。

源流一帯は、ブナやミズナラなどの巨木が生い茂り、1901年に東京都がはじめた水道水源林事業は1世紀を超えましたが、今も豊かな自然環境が現存しています。小さな農村が、源流という資源を活かした地域づくりの未来を展望しながら、流域住民たちと一体となって「源流を誇りにみんなが協働する村づくり」(第3次小菅村総合計画)を展開してきました。

2001年4月、多摩川源流を活かした源流にこだわった村づくりのシンクタンクとして「源流研究所」を設立、以来、研究所では源流域の塩山市・奥多摩町・丹波山村・小菅村全体の調査研究や、源流域のあらゆる資源を徹底的に調査・研究するとともに会報「源流の四季」を通じて情報の発信と交流事業の推進を図り、源流域の4つの市町村の共同と協調の進展を目指してきました。

2006年には取り組みの対象をさら

に下流域へ拡大、多摩川流域の大学や住民、企業等を含めた幅広い連携によって構成される「多摩川源流大学」を創設しました。多摩川源流大学は、東京農業大学が行っている人材教育プログラムで、小菅村などの流域地域全体を学びの場として、農業や森林作業、文化体験などの体験実習を行い、それを通して農山村地域の暮らしを理解してもらうことを目的としています。学生以外の都市住民の参加者も増えつつあります。

2008年、2009年には村民と協働し、村を元気にするための「源流元気再生事業」に取り組み、それを継続するため、2010年に「NPO法人多摩源流こすげ」を設立、以来、学生と地元住民、都市住民の協働による森林や耕作放棄地の再生、間伐材の教材利用、農業生産物の学校給食での利用など、源流ならではの活動を展開しています。この流域と交流し、連携を深めることから都市と農村の共生の夢が現実味を帯びてきます。

源流域では自然と人間の生活を見事に調和させ、「持続可能な生き方」が累々と営まれています。全国の河川の最上流に位置する自治体が結集して、2005年11月に「全国源流の郷協議会」を設立しました。構成する自治体は、現在は16県26市町村に拡大しています。源流域の重要性を普及するため、全国源流シンポジウム、全国源流サミットに共催し、源



ふなきなおよし  
小菅村村長(山梨県)  
全国源流の郷協議会会長

船木直美

流の郷が一体となって、国に対して政策提言を行い、その実現に向けて取り組みを進めています。2013年度事業では源流白書を作成することとし、源流白書検討会を、提案者の高橋裕先生(東大名誉教授)をはじめ多領域の多彩な顔ぶれの方々にお願ひし、2014年3月に『源流白書——源流の危機は国土の危機』を発刊しました。

社会的格差が広がり不透明で不安な社会状況が続く中、日本の原風景が色濃く残るとともに人間らしく生きる力を与え続けてくれる源流の暮らしと自然は、ますます大切になってきています。水や森林などの源流の資源は、すべての国民にとってなくてはならない共有の資源です。かけがえのない源流資源を、流域の視点に立って、源流に暮らし人と源流の恵みを共有し享受する人たちが協働して保全することが今何よりも大切になってきます。